

スヌーズレン教育研究会のご案内

—通常学校におけるスヌーズレンの授業の有効性—

今日、小・中学校の通常学級に在籍する発達障がいの児童生徒に対する指導・支援のあり方が問われています。本研究会では、これまで主に特別支援学校で取り組まれてきた多重感覚環境の設定によるスヌーズレン教育を通常学校に適用して、その有効性や可能性を追求しています。当日は、常葉大学の教員の講演と学生によるスヌーズレン教育実践の報告、さらにスヌーズレン教材の紹介もご紹介します。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。



暗い空間で蛍光教材を用いたスヌーズレンの授業

開催日	2018年2月24日(土)	参加費 無料
	14:00~16:00 (受付13:30~)	
会場	静岡市特別支援教育センター	定員 50名 (先着順)
	1F・大会議室 静岡市葵区一番町50番地 静鉄バス 藁科(わらしな)線「一番町」下車 徒歩3分 ※駐車場に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。	
スケジュール	13:30~14:00	受付
	14:00~14:10	開始、挨拶
	14:10~14:50	基調講演…姉崎 弘(常葉大学教育学部教授) 「通常学校におけるスヌーズレンの授業の有効性について」
	14:50~15:00	休憩
	15:00~15:30	実践報告①…酒井 空(常葉大学教育学部4年) 「小学校の発達障がい児への取出しによるスヌーズレンの授業実践」 (最終報告)
	15:30~15:45	実践報告②…鈴木孝則(常葉大学教育学部3年) 「小学校の通級指導教室におけるスヌーズレンの授業実践」
	15:45~15:55	全体質疑
	15:55~16:00	挨拶、終了

スヌーズレンとは…
1970年代にオランダの重度知的障がい者施設においてやすらぎの活動やリラクゼーションの一手法として始められた活動です。スヌーズレンの語源はオランダ語の「フランクン匂いをかぐ」と「ウトウト居眠りをする」の合成語から成り、今日では、世界中の福祉施設や学校、病院、個人宅などでさまざまな障がい者や病気のある人々などを対象とした余暇や教育・セラピーの方法として広く活用されています。日本の学校では、スヌーズレンは2000年頃から徐々に肢体不自由特別支援学校等に導入が始まり実践されています。

申し込み方法 | 下記の参加申込書に必要事項を記入して、FAX か、メールによる送信をお願いします。

主催	ISNA日本スヌーズレン総合研究所 所長 姉崎 弘	協力	学術研究出版/ブックウェイ
	〒420-0911 静岡市葵区瀬名1-22-1 常葉大学教育学部 姉崎 弘研究室内		(小野高速印刷株式会社 出版事業部)
	http://www.snoezelen-research.jp/		E-mail: info@bookway.jp FAX: 079-223-3523

【2月24日(土) 第2回スヌーズレン教育研究会参加申込書 (FAX)】

勤務先		職名	
ご氏名		TEL	
E-mail アドレス		FAX	

※ご記入いただいた個人情報につきましては、主催者と協力会社の規定により次のとおり適切な安全管理措置を講じます。

1. 本研究会の実施に使用し、目的外には使用いたしません。 2. 協力会社より主催者以外の第三者への提供は行いません。 3. 主催者及び協力会社にて共同で利用いたします。

E-mail: info@bookway.jp FAX :079-223-3523 (小野高速印刷株式会社 出版事業部)

平成 30 年 1 月 25 日

各 位

常葉大学教育学部
教授 姉崎 弘

(ISNA 日本スヌーズレン総合研究所所長)

<http://www.snoezelen-research.jp>

第 2 回スヌーズレン教育研究会開催のご案内

—通常学校におけるスヌーズレンの授業の有効性—

厳寒の候 貴職におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より本学の教育・研究活動並びに本研究所の研究・研修活動にご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼を申し上げます。

さて、別紙のとおり、平成 30 年 2 月 24 日(土)に静岡市特別支援教育センター1 階大会議室を会場に、ISNA 日本スヌーズレン総合研究所主催による「第 2 回 スヌーズレン教育研究会」を開催する運びとなりましたので、別紙のとおり、ご案内を申し上げます。本事業は「しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業」に採択されたもので、静岡市特別支援教育センターと連携しながら実践研究を推進しており、参加費は無料です。

今日、小・中学校の通常学級に在籍する発達障がい等の児童生徒に対する指導・支援のあり方が真に問われています。多くの学校では、現在ユニバーサルデザインの工夫や合理的配慮等の指導や支援方法を模索しながら取り組んでいるのが現状です。

今回のスヌーズレン教育は、1970 年代にオランダの知的障がい者施設で始められた取り組みを、学校教育に「スヌーズレン教育」として適用を図ったものです。主に視覚刺激や聴覚刺激、嗅覚刺激等を用いた環境を別室に設定して、対象児の興味のある学習活動を通して、リラクゼーションを促し共感的触れ合いにより、対象児の心理的な安定や教師との信頼関係を培うことで、対人関係面の改善やコミュニケーションスキルの向上を図るもので、今後小・中学校の発達障がい児等に対する指導の成果が期待されております。

別紙の案内チラシにございますが、当日は、私の基調講演「通常学校におけるスヌーズレンの授業の有効性について」国内外の理論と実践をご紹介します。さらに、常葉大学教育学部 4 年生の酒井 空さんによる実践報告「小学校の発達障がい児への取出しによるスヌーズレンの授業実践」の成果等の発表がございます。

今回、特に学部生による発達障がい児等へのスヌーズレンの授業実践を通して、自閉的傾向のある対象児に対人関係やコミュニケーションの面で大きな変容が見られましたので、皆様に実践の成果を中心にご報告いたします。

また、スヌーズレンで用いる蛍光教材・教具の紹介もございます。現場の先生方の日々の実践に役立つ内容になっております。

何かとご多用の時期とは存じますが、ぜひ職場の皆様にご案内の開催についてご案内下さいますよう、何卒ご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。 敬具